

## 令和4年度 発掘調査 ここに注目 🔍

令和4年度発掘調査では、弥生時代に特徴的な石器や石製品がいくつか見つかりました。

大門遺跡では初めて見つかった品をご紹介します。

### くだたま 管玉

今回の調査では管玉が2点見つかりました。管玉は弥生時代のビーズネックレスのビーズのようなもので、当時の人々もオシャレを楽しんでいたことがわかります。

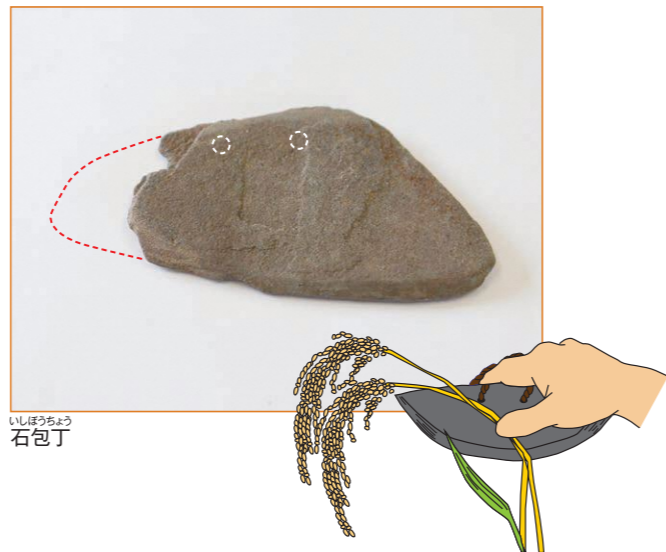


くだたま  
管玉 (左36調査区出土・右29調査区出土)

愛野向山遺跡出土管玉

### いし ぼうちよう 石包丁

石包丁と呼ばれる弥生時代の石器も見つかっています。石包丁は稲の穂先だけをむしり取るための道具で、一般的には指を入れるための紐を通す穴があります。しかし、大門遺跡の石包丁はまだ作っている途中なのか、穴がついていませんでした。



いし ぼうちよう  
石包丁

## 土器が元の姿に戻るまで PART 3

割れたり欠けたりしている土器のかけらを接着剤などでくっつけて、なるべく元の形に戻していきますが、全てのかけらが残っていることはほとんどありません。そのため、破片が見つからなかった部分には石こうを入れて、元あった形に戻していきます。

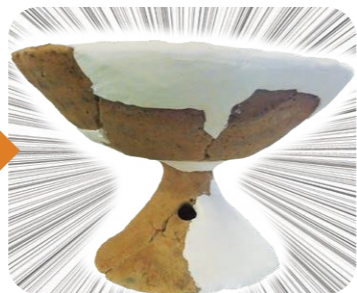
このようにして、元の形に戻した状態のものを郷土資料館や歴史文化館で展示することで、多くの方に見ていただいた際にわかりやすいようにご紹介しています。



石こうを入れて…



はみ出たところは削る…



完成!



展示の様子

令和4年度

# 大門遺跡

田端地区

# 発掘調査

大門遺跡はJR袋井駅南口エリアから袋井南コミュニティセンター付近まで広がる弥生時代中期から古墳時代初頭を主体にした遺跡です。袋井駅南都市拠点土地区画整理事業に伴って、遺跡の発掘調査は平成30年度から継続的に行われています。

遺跡の調査に伴って、弥生時代～古墳時代の当時の人々が使った道具(遺物)や生活の痕跡(遺構)が多く見つかっています。

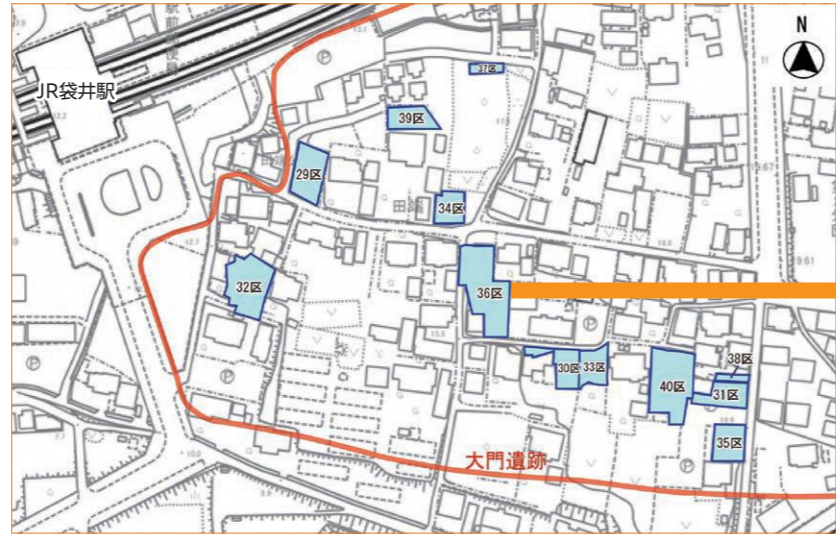
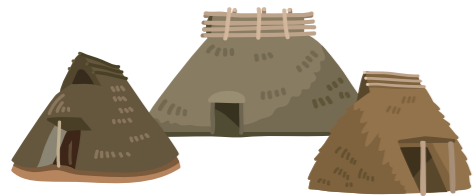
令和4年度調査で新たに発見された遺物や遺構をご紹介します。



# 令和4年度調査の成果

令和4年度は調査区合計3,531㎡の発掘調査を行いました。

遺跡範囲の南西部を中心に調査を行った結果、主に弥生時代～古墳時代の竪穴住居や大型の溝が見つかりました。



令和4年度 調査場所

## 焼けた竪穴住居

令和4年度に調査した36調査区からは竪穴住居が2つ見つかりました。

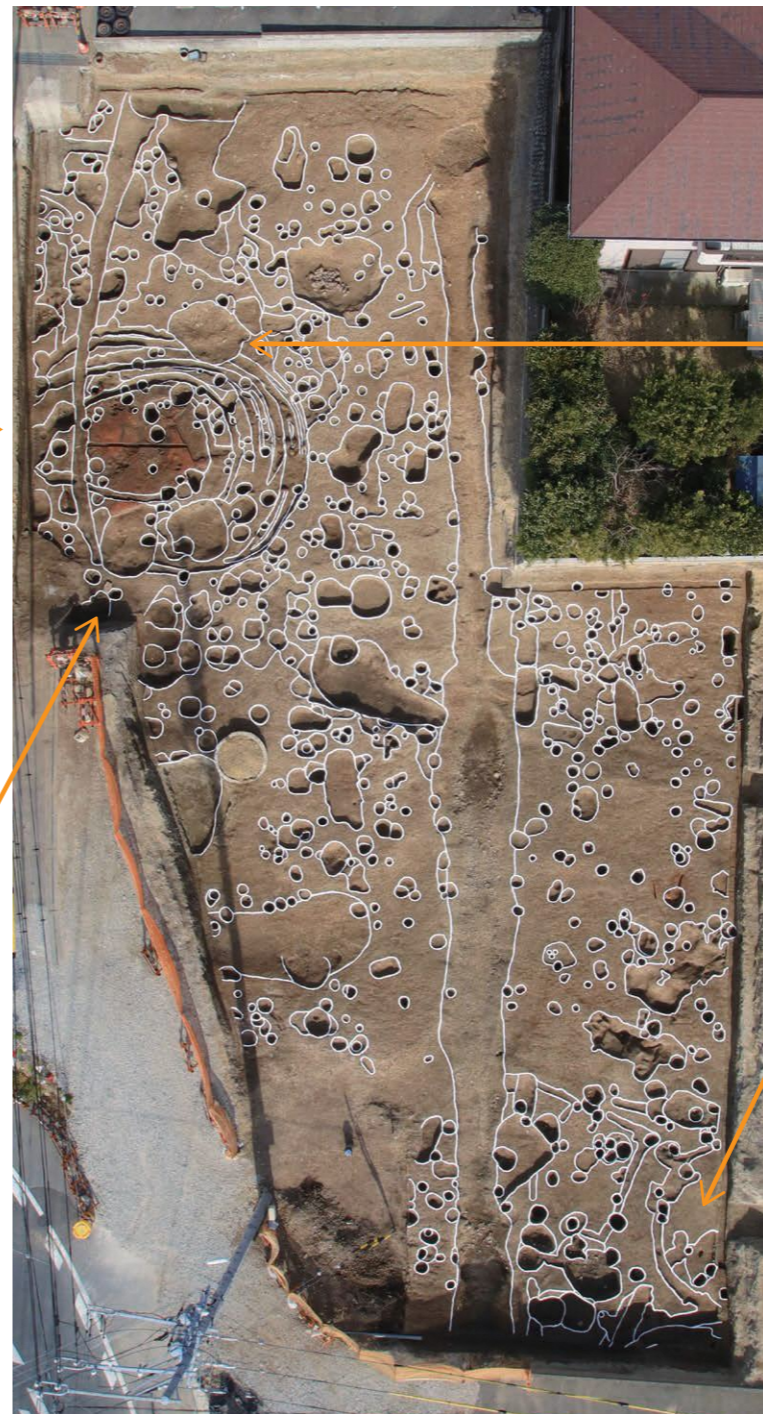
1つは非常に大型の竪穴住居で直径約10mほどの大きさでした。何度も建て直して徐々に大きくなっていたようで、住居の溝が同心円状に残っていました。

建物の床面には真赤に焼けた土がこんもりと乗っていて、その土の中には建物の柱だったと考えられる炭が筋状に入っていました。このことから、建物が火災にあったことや屋根の上に土をのせるタイプの土葺き屋根の家だったことがわかります。

また、床面からは管玉が1点出土しました(詳細は裏面)。



何度も建て直された竪穴住居の跡

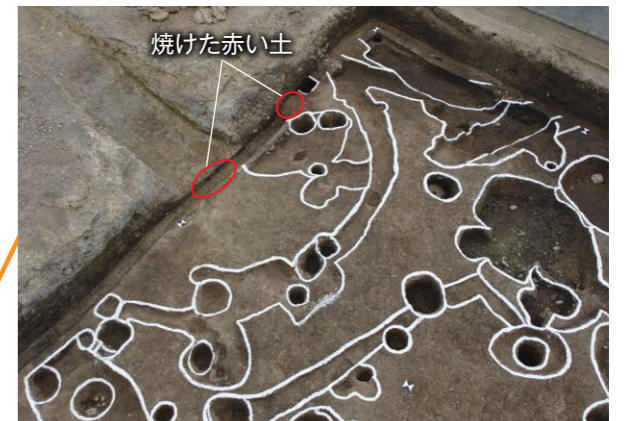


36調査区 空撮写真



## 大量の土器が見つかった穴

大型の竪穴住居の北側で見つかった穴(土坑)からは大量の土器がまとまって見つかりました。住居の中からはあまり土器が見つかっていないので、いらなくなった土器をココにまとめて捨てたのかもしれない。

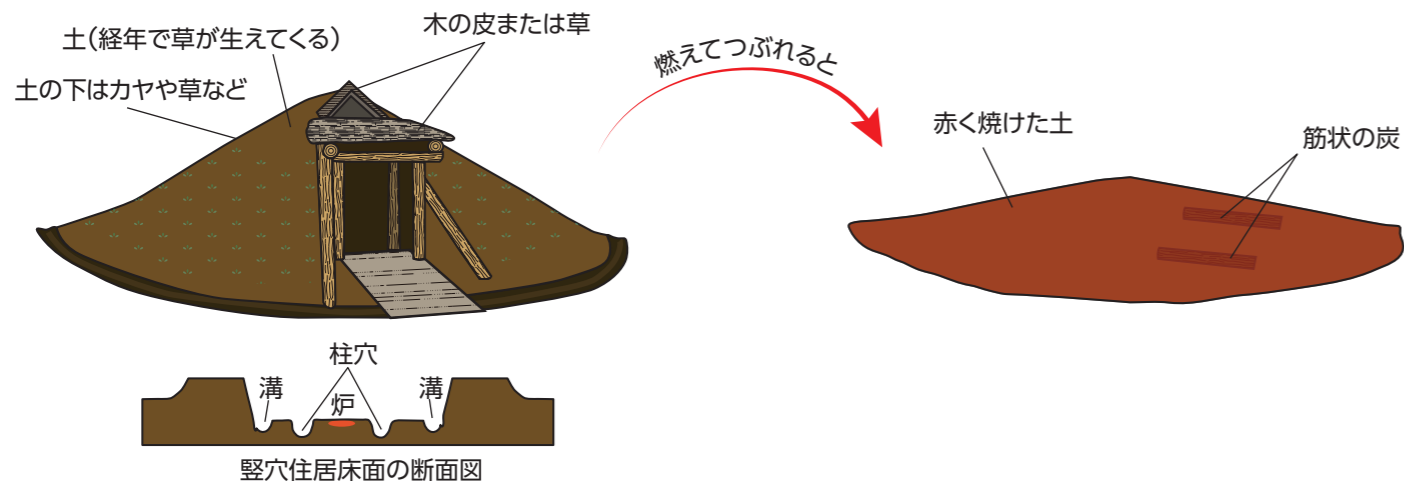


## 竪穴住居の跡

調査区南側からも少し小型の竪穴住居が見つかりました。炉の跡と考えられる赤い土が住居の中央から見つかりました。

調査区北西の『焼けた竪穴住居』と比較してみるとサイズの違いがよくわかります。

## 土葺き竪穴住居イメージ



## 割れる土器 割れない土器



使わなくなって捨てちゃった土器?

バラバラになった土器の破片が大量に出てくることもあります。そんな時はどの地層から出たのか調べるために、带状に土を残して掘っていきます。



表紙で掘り出している土器

大切にしまった大事な土器なのかも

30区から、割れないで全体が残っている甕も見つかりました。土の重さでつぶれてしまうことが多いのでとても珍しいんですよ。